

令和 5 年 5 月 20 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01306

研究課題名（和文）木曾三川流域における治水関係文書の高度活用に関する研究

研究課題名（英文）Research on sophisticated use of flood control documents in the kiso three rivers basin

研究代表者

石川 寛（ISHIKAWA, Hiroshi）

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：30612527

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,400,000円

研究成果の概要（和文）：水害常襲地域であった近世の木曾三川流域を対象に、旗本高木家文書および美濃郡代笠松代官堤方役所文書を中心とした治水関係文書群について、所在調査、目録採取、デジタル撮影およびアーカイブ化に取り組み、各地に分散する資料の体系化および共有化を図るとともに、資料の分析から流域村々や輪中の環境認識と災害への対応、公権力（幕藩権力）による河川管理体制の展開を検討し、災害と地域の関係性を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、全国屈指の規模で治水・水害関係資料が残る木曾三川流域の歴史情報資源の統合・共有化を図ることで、水害が激甚化するなか重要な課題となっている災害の歴史分析に向けた研究基盤を整備した。また、統合される歴史情報資源を活用しつつ、自然災害と地域社会の関係性、河川をめぐる地域社会のあり方について歴史的に考察することで、自然との共生という今日的課題に応えることを目指した。

研究成果の概要（英文）：We worked on investigated the locations of documents related to flood control centered on Takagi family documents and Kasamatsu magistrate's office documents, cataloged them, and collection by the digital shooting, archiving targeting the kiso three rivers basin in the early modern period and devised systematize and share. Then, based on the analysis of the materials, we examined the environment recognition and response to disasters of the basin villages and Wajuu, and the development of the river management system by the public authority (curtain feudal clan power).

研究分野：日本史関連

キーワード：日本史 旗本高木家 高木家文書 史料研究 木曾三川 流域治水 治水 河川絵図

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

木曽三川流域には、近世に河川管理を担った旗本高木家および笠松陣屋堤方役所の資料を中心に、各地の資料館や図書館、個人所蔵も含め、治水・水害関係資料が全国屈指の規模で系統的に伝来している。しかし、これらの治水関係文書群は、膨大かつ分散した状態で伝来しており、いまだ一体として研究・利用できる環境には至っていない。そのため、豊富な歴史災害情報が含まれていながら、その活用は限定的であり、流域を横断的にみた災害と地域の関係性などは未開拓の分野として残されていた。

2. 研究の目的

歴史災害研究の一環として、治水・水害関連資料が体系的に伝わる木曽三川流域を対象に、膨大かつ分散した歴史情報資源の所在把握と収集(デジタル撮影)およびデジタルアーカイブ化に取り組み、治水関係資料の体系化と共有化を高度に推進することを目的とした。あわせて、統合した歴史情報資源を活用し、これまで資料の散在により阻まれてきた、当該流域における災害と地域の関係性解明につなげることを目的とした。

3. 研究の方法

流域に伝来している治水・災害関連資料についての内容調査・データ収集・デジタル撮影を実施した。次に、関連情報を集約しての絵図等の年未詳文書の年代比定、文書群相互の関連性の分析と目録の整備、関連文書を統合したデータベースの作成をおこない、治水関係文書群の統合と共有化を図った。また、資料調査・整理・収集と並行しながら蓄積した歴史情報資源やデータベースを活用した研究展開をおこなった。

4. 研究成果

(1) 旗本高木家文書の調査と整理

木曽三川流域の治水を管掌した旗本高木三家に関する資料に関して、名古屋大学附属図書館が所蔵する西高木家文書については治水関係資料のデジタル撮影に取り組み、これまでに約5500点を撮影し、近世の治水政策の展開を踏まえた内容分類を進めた。また、大型絵図を含む河川絵図については、拡大して細部まで確認できるだけの高精細デジタル撮影を集中的におこない、500点余りあるすべての河川絵図の撮影を終えることができた。撮影した河川絵図については、宝暦年間のものを中心に年代比定と内容の解析を進めた。東高木家に伝来した文書群のうち東高木家治水文書(個人所蔵)については、資料整理と並行してデジタル撮影によるデータ収集をおこない、約7000点の仮目録を作成した。なお、東高木家治水文書は、研究期間中の2021年に旧蔵者の遺志により名古屋大学に寄贈された。寄贈をうけて2022年6月に東高木家治水文書を紹介する展示会「東高木家文書にみる木曽三川流域の歴史・環境・技術」を名古屋大学附属図書館において開催した。また、名古屋市蓬左文庫が所蔵する東高木家文書についても、木曽川河口新田関係絵図・笠松役所関係文書を中心にデジタル撮影を実施した。北高木家関係文書(個人所蔵)約4100点については、文書写真に基づき仮目録データの点検作業を継続実施し、目録刊行に向けた準備をおこなった。今後、原本照合を経て、目録完成につなげたい。

(2) 美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書の調査と整理

高木家と共に流域の河川を管轄した美濃郡代笠松陣屋の堤方役所文書(岐阜県歴史資料館所蔵)については、水行普請に関わる資料を中心にデジタル撮影に取り組み、従来の分も含めてこれまでに3100点余の撮影を終えた。そのうち河川絵図は約600点をデジタル化し、大型河川絵図については高精細デジタル撮影をおこなった。撮影した資料については、従来の目録に代わる、1点ごとの詳細な目録採取を進めた。

(3) 諸大名の藩政文書群

災害復旧に動員された諸大名家文書については、山口県文書館および岩国徴古館において明和3(1766)年および文政3(1820)年の手伝普請に関する毛利家・吉川家の資料93点を撮影することができた。手伝普請に関する御用留・御内用状控、出張日記・御手記、勘定帳、絵図などを確認した。

(4) 流域の輪中や村々の治水関係資料

流域の自治体や資料館などに所在する、輪中や村方の治水関係資料については次のとおりである。

大樽川洗堰に関する地方資料である大樽川洗堰組合文書については、これまでに840点を整理し、うち375点(6413コマ)を撮影した。木曽三川上流の土砂災害やその対策に関して現地調査と資料収集をおこない、また羽根谷さぼう遊学館において羽根谷の砂防工事に関する絵図を確認した。名古屋市博物館が所蔵する治水関係資料を調査し、江戸時代から明治時代の河川絵図など59点を確認することができた。幕末に連続した水害に対する尾張藩の救済活動を示す御年貢地懸の資料(徳川林政史研究所所蔵)を集中的に収集して分析をはじめた。新出の資料として、大藪村川並図、多芸郡有尾村普請絵図、木曽三川普請関係絵図類および戦前に岐阜県が編纂した岐阜県治水史資料(全15冊)を収集し、デジタル撮影をおこなった。文政7

年尾濃勢州川々水行直御普請絵図、犬山から鯛浦までを描いた木曾川通絵図（3枚組）尾張国の河口部を描いた西海辺土取場絵図、天白川通東海辺共図（すべて名古屋大学附属図書館所蔵）の修復とデジタル撮影を終えて、利用可能な状態とした。海津市歴史民俗資料館、西尾市岩瀬文庫、名古屋市鶴舞図書館の調査により新たな普請目論見絵図や流域大絵図を確認し、内容分析をおこなった。木曾川から豊川に至る愛知県域の用水史をいくつか収集して、用水史・治水史の地域比較を試みた。笠松杉山家文書（名古屋大学附属図書館所蔵）の整理を始め、笠松陣屋や木曾川に関する資料を確認した。17世紀後半以降の牧田川からの引水をめぐる争論や18世紀以降の川普請に関する文書・絵図が伝来する美濃国石津郡牧田村（現・岐阜県大垣市上石津町牧田）の吉田家文書（大垣市所蔵）約9000点のデジタルアーカイブ化を進めた。

このほか、高木家文書「御用日記」の翻刻、高木家書状や起請文の収集、明治30年代前半における河川行政（木曾川や矢作川）をめぐる県庁・県会の動向についても資料調査をおこなった。

(5) データベースの構築と研究展開

調査・収集・撮影した資料は、流域治水の展開を踏まえた新たな分類項目を付与して、ウェブ上での横断検索を可能とする高木家文書デジタルライブラリー（https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi）への登録を進め、災害の歴史分析に向けた研究基盤を整備した。追加登録した資料群は、新出の河川絵図や岐阜県治水史資料、修復した河川絵図、西高木家文書のデジタル撮影分および牧田村吉田家文書である。美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書については、「水行奉行」に関する普請所取調、国役普請、取払普請、川通絵図、大樽川口洗堰、油嶋喰違堰、治水行政までを先行して登録した。東高木家治水文書および北高木家関係文書については目録刊行後に登録・公開する計画である。現在まで登録した登録文書群は32、メタデータは約9万1000件、資料画像は約29万枚である。



高木家文書デジタルライブラリー

収集・統合した歴史情報資源をもとに災害と地域の関係性を考察するため、村方願書と河川絵図を重点的に分析した。高木家文書・堤方役所文書には、流域村々の治水への取り組みを示した村方願書や訴状が豊富に伝わり、それらは普請要求箇所を示した絵図が付属するものが少なくない。その残存点数は流域環境が大きく変化し大規模普請が実施される18世紀中から多くなっている。18世紀になると、土砂堆積が活発な東高西低の地盤構造と大規模開発による河道の固定化、遊水地の狭隘化を要因とした逆水氾濫が下流域から中流域にも及びつつあり、川の形状や流れを大きくかえるような新規普請を訴える村々が続出するからである。そこで収集した村方願書と河川絵図を整理・分析することで、近世の木曾三川流域における河川環境とそれに対する村々の認識、災害に対処するための普請要求内容と地域社会の動向を検討し、18世紀に入ると下流域のみならず中・上流域においても河川環境・災害対応をめぐって連携と対立を繰り返しながら多様なレベルの治水・普請要求が表面化したこと、そうした地域の動向に対応する形で立案された公権力（幕藩権力）による普請計画の展開を明らかにした。各段階における流域の課題と取り組みを踏まえながら、宝暦4（1754）年に実施される薩摩藩手伝普請（宝暦治水）に至る道筋が明らかになりつつある。

木曾三川流域史において重要な位置を占めてきた「大樽川洗堰」については、大樽川洗堰組合文書の整理・分析を通じて、輪中地域間の利害対立の様相およびこれに関わる領主側の動き、御料福束輪中15か村・同多芸輪中12か村・尾州領7か村の3グループ34か村により運営される組合運営の実態、近世・近代への移行過程を含む歴史的変遷などの解明が進み、流域治水をめぐる地域社会論構築に向けた重要な手がかりを得ることができた。

土砂災害に関しては、飛騨国益田郡内で発生した「下呂抜け」と称する出水による山崩等の土砂災害について現地調査をおこない、土砂災害のイベントと下流域の治水との関連性について検討し、「下呂抜け」災害の土砂が飛騨川本川に到達したと推定されることを報告したが、下流に至るまでの飛騨川本川に土砂が大量に滞留したことを示唆する記録が確認できていなかったため、河川水文モデルiRICを用いて出水時の土砂移動をシミュレートし、土砂のたまりやすい区間の抽出を試みた。

また、近代の災害と地域の問題についても、明治30年代前半における河川行政をめぐる検討から県令・郡長の大幅な更迭にいたる過程と問題点を確認することができた。

このほか、『古文書・古絵図で読む木曾三川流域』の執筆、高木家文書『御用日記 宝暦四年』の翻刻、手伝普請が実施された寛政元年の美濃国方県郡上城田寺村文書の解読にも取り組んだ。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 石川寛	4. 巻 17
2. 論文標題 高木三家文書の現状と統合 - 高木家文書調査報告2019 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名古屋大学附属図書館研究年報	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 秋山晶則	4. 巻 9
2. 論文標題 大樽川洗堰をめぐる一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 輪之内學研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石川寛	4. 巻 18
2. 論文標題 川通掛高木家の川通巡見 天保五年を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋大学附属図書館研究年報	6. 最初と最後の頁 24-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 服部亜由未	4. 巻 -
2. 論文標題 馬場家文書に見る牛伏川流域の水論と治水（1）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 馬場家研究報告2020	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山晶則	4. 巻 10
2. 論文標題 「大樽川洗堰組合文書」管見	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 輪之内學研究	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山晶則	4. 巻 94
2. 論文標題 河川災害と地域の対応	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 河川文化	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川寛	4. 巻 19
2. 論文標題 宝暦治水前の普請意見書の分析 その1 高木家文書の河川絵図の研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学附属図書館研究年報	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木雅	4. 巻 45
2. 論文標題 松平君山の巡河日課と河渠図	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋市博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張立天・田中隆文	4. 巻 70
2. 論文標題 近代の河川保全の取り組みの背景の理解に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中部森林研究	6. 最初と最後の頁 19-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川寛	4. 巻 -
2. 論文標題 高木家文書からみる木曾三川の治水	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木曾、長良、揖斐の歴史、自然、地域づくりを考える	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川寛	4. 巻 20
2. 論文標題 宝暦治水前の普請意見書の分析 その2	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋大学附属図書館研究年報	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川寛	4. 巻 20
2. 論文標題 宝暦期における二枚の普請目論見絵図	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋大学附属図書館研究年報	6. 最初と最後の頁 37-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川寛	4. 巻 1
2. 論文標題 安政東海地震における尾張徳川家の救済活動	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛知県公文書館研究紀要	6. 最初と最後の頁 101-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中隆文	4. 巻 -
2. 論文標題 岐阜県下呂市における安永元年(1772年)「下呂抜け」災害とその流出土砂の木曾川下流への影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 砂防学会令和5年度研究発表会概要集	6. 最初と最後の頁 251-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 4件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 秋山晶則
2. 発表標題 木曾三川流域治水史をめぐって
3. 学会等名 第7回全国禹王サミットin海津(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山晶則
2. 発表標題 木曾三川流域治水史をめぐって
3. 学会等名 名古屋大学減災連携研究センター クラウドファンディング事業・調査研究報告会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川寛
2. 発表標題 高木家文書から見る木曾三川の治水
3. 学会等名 第38回岐阜シンポジウム 木曾・長良・揖斐 歴史、自然、地域づくりを考える（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川寛
2. 発表標題 安政東海地震における尾張徳川家の救済活動
3. 学会等名 歴史資料講演会 尾張徳川家と尾張・名古屋（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋山晶則
2. 発表標題 近世河川災害と地域の対応
3. 学会等名 三河地域史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木雅
2. 発表標題 木曾三川河口部の新田開発と木曾三川流域大絵図
3. 学会等名 近世史研究会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 秋山晶則、石川寛、河西秀哉、木村慎平、鈴木雅、羽賀祥二、堀田典裕	4. 発行年 2019年
2. 出版社 名古屋市博物館	5. 総ページ数 144
3. 書名 治水・震災・伊勢湾台風	

1. 著者名 石川寛、秋山晶則、大橋正浩、鈴木雅、服部亜由未	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風媒社	5. 総ページ数 175
3. 書名 古文書・古絵図で読む木曾三川流域	

1. 著者名 高木家文書研究会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 高木家文書研究会	5. 総ページ数 71
3. 書名 高木家文書『御用日記 宝暦四年（一）』翻刻	

1. 著者名 高木家文書研究会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 高木家文書研究会	5. 総ページ数 37
3. 書名 高木家文書『御用日記 宝暦四年（二）』翻刻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>高木家文書デジタルライブラリー https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi</p> <p>石川寛「修復資料の紹介」 クラウドファンディング事業報告会 2022年 秋山晶則「河川の歴史」 愛西市市民大学 2021年 秋山晶則「木曾三川と治水」 東海高校・中学 土曜市民講座 2022年</p> <p>共催 地域歴史文化大学フォーラムin名古屋 地域資料保全のあり方を考える 2019年</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	秋山 晶則 (AKIYAMA Masanori) (40293691)	岐阜聖徳学園大学・教育学部・教授 (33704)	
研究分担者	斎藤 夏来 (SAITO Natsuki) (20456627)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	池内 敏 (IKEUCHI Satoshi) (90240861)	名古屋大学・人文学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	服部 亜由未 (HATTORI Ayumi) (70708370)	愛知県立大学・日本文化学部・准教授 (23901)	
研究分担者	田中 隆文 (TANAKA Takafumi) (40192174)	名古屋大学・生命農学研究科・准教授 (13901)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	羽賀 祥二 (HAGA Shoji)		
研究協力者	鈴木 雅 (SUZUKI Masashi)		
研究協力者	中尾 喜代美 (NAKAO Kiyomi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関